

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)		訪問国	フィンランド	
学校名	静岡県立清水南高等学校	氏名	福地絢心	学年	2年

概要

留学期間:2025年8月24日～2025年9月8日

受入先機関:Home Language International

探求テーマ:自然と共存するフィンランドの質の高い幼児教育の視点から日本の教育の課題を突き止める!

探究テーマの設定

私は以前から『幸福』に興味があった。日本は先進国の中でも子どもの幸福度が低く、対してフィンランドは子ども大人どちらの幸福度も世界トップレベルだと知った。その原因として幼児教育と豊かな自然環境の融合にあるのではないかと仮説を立て、本留学のテーマとした。

活動内容

留学前

静岡市の保育園・幼稚園に計5ヶ所訪問し、サポーターとして子どもの遊び相手や食事補助などを行った。また、各園で職員の方々にインタビューを行った。

留学中

3ヶ所の保育関連施設を訪れ、サポーターとして活動し、内1つの園でインタビューができた。加えて、自然環境調査、幼児教育に対する意識度調査として街頭インタビューを行った。



結果

日本(静岡)では子どもは集団で行動する時間が少なく、個々で別々の遊びをしている光景が印象的だった。対してフィンランドでは必ず誰かと行動を共にし、遊んだり活動を行っていた。そのため職員の配置にも違いが見られた。日本は全園で、適宜職員が移動しながら全員に目を配る体制がとられていたが、フィンランドでは各グループに職員が1人つき、決められた活動を全員で一緒に進める、というスタンスだった。ここに、職員の負担の差も見られた。特に日本の園職員は人手不足に苦難している様子だった。また、フィンランドではどの園にも園庭がなく、外で遊ぶ時は付近の自然公園や小山、湖などが利用されていた。これは意図的であり、自然との関わりを重視しているという話を聞くことができた。街頭インタビューでは、8割強の現地の人々が幼児教育の体制に満足を示していることがわかった。自然の取り入れにも肯定的であり、子どもに対する意識度も高いという結果が出た。

考察

日本では、学習ではなく『発見』を重視している。日常生活の中にある気づきそのもの積み重ねを小学校の学習に繋げている。好奇心や観察力が身につくのではないだろうか。一方フィンランドは、発見による『学習』に重きを置いており、学ぶ意欲や探求心がそそられるような教育方針であると感じた。特に、自然に囲まれて遊ぶ中で、触れるモノや事象を一つひとつ考えたり、英語で言ってみたり、そんな些細なことに学習要素が豊富に含まれている。小学校からの『学び』を見据えた活動を豊かな自然中で育てていくこと、それが行政、地域、国民が三位一体となって関心を示し、協力していることこそが幼児教育の質の高さに影響を与えている1つ重要な要因ではないかと考える。

アンバサダー活動

訪れた園の職員、街頭インタビューに協力してくれた現地の方々に静岡産の抹茶を使用した和菓子を、静岡と和菓子の紹介が書かれているパンフレットを付属でプレゼントした。

今後の展望

幼児教育を専門的に学び、将来は教職に就きたいと考えている。今回は自然環境に注目したが、他の視点からも幼児教育を深掘りするため、大学では長期留学をすることが目標である。静岡の子どもの幸福度向上に携わっていきたい。

